

第4回シンポジウム「こどもを支える現場から」 来場者アンケート集計結果

回収数=92枚

1. このシンポを知ったのは？（複数回答あり）

- | | |
|------------------|----|
| A. インターネット上の情報で | 6 |
| B. 地域情報誌や新聞で | 2 |
| C. 知人から | 42 |
| D. FAXによる案内で | 5 |
| E. 主催団体のHPで | 2 |
| F. 主催団体のメールニュースで | 12 |
| G. その他 | 25 |

職場の回覧で、加入しているMLで、主催側の人に直接誘われて、など

2. 今日話題に上ったテーマでご関心が深いのは？

●・障害児医療・広汎性発達障害・児童虐待防止●第一部すべてがそれぞれの現場からの声を聞く機会となり、短い時間の中で内容の濃いものでした。その中でも土橋医師の、障害者についてわからなかったという点に自分も重なる所がありました。市川市の家族会と医師会との取り組みが印象に残りました。●地域ケア●・地域医療ネットワーク・障害児医療アクセスへの取り組み●障害児が医療を受けるときのお願いカードは大変に良かった。もっと啓蒙された方が良いと思う。●我が息子も医療行為のある34歳の子供です。今は通所していますがいずれは在宅で家族で住みたいと思っていますので多摩地区の医療ネットワークは素晴らしいと思いました。感じたことは地域で（今住んでいる）小児科医、内科医師が障害児、障害者を理解して本当にこの地区で住んでよかったと思えるような人生を生きたいと思っています。●・地域医療ネットワーク（宮田先生）・千葉県でどうしたら医療ケアの必要な重症心身障害児（者）の支援ネットワークが各地域でできるかという点●周産期の先天異常●・こどものうつ・発達障害・予防接種・法律●在宅医療（特に重症児）についての実践的報告が勉強になりました。また当事者の方の声（患者さまのお母様方）は、とても勉強になりました。●障害児医療のコーディネーター、田口先生の話「政策コーディネーター」、つなぎ合わせて実現させていく力の必要性を感じました。●・障害児の在宅医療における福祉との積極的連携事例・地域医療ネットワーク・出生前診断●“ネットワーク”という言葉がかなり一般的に使われるようになってきた中で、実際にチームで支援する、あるいは機能するネットワークを構築するということが必要か、現場では課題が見えてきているのだという事が様々な事例の中で分かり、興味深く聴かせていただ

きました（質問と若干ズレた解答で恐縮です・・・）●日本が子ども支援においては後進国であるということ●精神障害者の声のお願いカードで医師との関係が改善されたという問題●「障害児の医療アクセス改善への取り組み」（市川手をつなぐ親の会諸谷様、鶴岡様、土橋医師）親の会と市川市医師会の医療プロジェクトの実践の経緯がわかって良かったです。「障がいのある人への医療課題は、すべての患者さんに共通する」良い言葉だと共感しました。●医師も患者も人間である点●先天異常の出生前診断について。自分の母親も子どもが生まれたらまず指が5本あるか調べたといっていました。生まれる前に以上がわかるのは非常にキケンな診断だと思います。知らせなくても良いこともあると思います。●障害児の医療アクセス改善の取り組み、市川親の会の方々のお話●33歳になる重症児・者の子供を在宅で一緒に暮らしてきました。生命だけ助けてもらい現在も寝たきりの人生を送ってます。通所施設に通っている昼間は色々なことをさせてくださっていますが、胃ろうを付け気切をし、本人はいったいどういう気持ちなのだろうといつも思ってます。ので在宅医療と福祉など全部に興味があります。もう一人アスペルガーの28歳の子供もいますから。●「こども中心」であること●コーディネーターはだれがどのようにやるか、Dr.は子どものこと全てわかっているわけではなくそれを伝えることの大事さ。●今かかわっているのが18歳すぎの在宅障害の子どもたちの通所施設の嘱託医をやっているの、これは関心深いテーマでした。小児科医としては小児保健法は関心がありますが、今、在宅児で問題なのは、むしろ18歳をすぎ、65歳になってないため介護保険の対象にならず、ケアマネがないということなのではないでしょうか。●児童虐待防止法とか小児保健法とか、実際に子どもを守るための法律のためにがんばっておられる人たちがおることが分かったコト。じかにお話がきけたコト。●“小児保健法”の構想●小児保健法・政策コーディネーター●うつ病や母子の中絶について●産科医療の抱える倫理的な課題・小児保健法基本理念と概要●障害児の在宅療育と、医療へのかかり方（市川の例が参考になった）まる患者の家族の不安を聞け、医師も学校の先生も知らない事は多い、患者からの提案によりスムーズに行く、市川の取り組みがとても参考になり、心を打たれた。地域全体で理解して協力する、受け入れ啓発●東京（宮田先生）、市川（土橋先生他）の在宅小児の話●障害児の在宅医療ネットワーク●家族支援の具体例がきけた。医師の側からの思いがきけたこと～医師も患者を傷付けたいわけでない、後悔している～●すべてのテーマに関連することであると思いますが、関係する団体をうまく取りまとめ、コーディネートする立場の方が様々な問題を解決する上で必要であると思います。行政、医療機関、福祉施設、医師会等でよりよく運営するためには、コーディネートする方を置く必要が分かり勉強になりました。●医療について地域での取り組み等●市川市の取り組みで、現実的に保護者と医師との連携を密にし取り組んでいる姿はとても興味深かったです。事前に説明カードをもちいるだけで病院の対応が変わり意識も高まったと感じました。地位との連携はとても大事だと感じました。●「障害児の医療ケアの改善」障害児理解が少しずつ広がって行くことで障害者本人や家族が住みやすい街になっていく、という部分に興味を持った。●

小児保健法の検討など国制度として整備すべき対象と地域で担うべき対象との整理と実現について・コーディネーターの役割と対応者について●こども。ガン対策も脳卒中対策も
いいが、こどもこそ優先すべき課題だと思っております。政策コーディネーターの必要性
(現場からの声を立法に届ける人材が求められていると分かった) ●全部●重症心身障害
児の家族支援。コーディネーターの必要性●障害を持った子どもたちが「生まれ育った地
域で生きていく」というごくあたりまえのことを実現するのにまだまだたくさんハード
ルがあるということを再認識しました。特に、市川手をつなぐ親の会の方々の発表にあっ
たように、その中でも特に医療現場が問題になっているという点。●市川手をつなぐ親の
会の診療カードはとてもいいアイデアで、それを形にした親の会の力に感動しました。●
初めて参加させていただきました。どのテーマも大変興味深く拝聴させていただきました。
●亀田の鈴木 Dr.のお話は、自分だったら・・・と考えさせられるテーマでした。●障害
者に対する医療現場の実態、問題点●政策コーディネーターに関する田口先生のお話、非
常に興味深かったです。●コーディネーターの重要性→当事者家族が情報を収集したり
理解・洗濯するには限界があり、それを越えようとすることで負担が増す。当事者家族の
現状を理解し、思いを受け止めて、適切なサービスを利用しながら安心して生活できる存
在になってほしいと思います。●コーディネーターの必要性について深められたこと。具
体的に県内でコーディネーター配置に向かって進んでいるのであれば、その具体的な方向
を聞くことができると良かったと思います。●宮田章子先生の地域医療ネットワークにつ
いて。興味深かったです。●様々な立場の方からの提言であった点●地域医療●政策コ
ーディネートや医療の現場と立法の関係・現在の医療・福祉の状況●すべて良かったです。
児童虐待防止法、政策コーディネーター、障害児の医療アクセス改善(大変勉強になりました)
●こどもの精神疾患と社会の支援●在宅おたす支援について「地域社会がより産科
していく事の重要性・障害を持っていることを伝えられるカードについて●コーディネ
ーターの重要性●先天異常と出生前診断●地域を通しての障害者とのかかわりや小児の鬱に
関してとても感心が深かったです。“専門性”とは何か・・・ということも印象的な話題で
した。●こどもの精神疾患。発達障害。●市川手をつなぐ親の会の方々のお話は非常に
具体的で、どのようなところが問題となっているのか、また問題点に対する解決策を地域
との連携を築きながらご自身立ちで提案されている事に感銘を覚えました。●市川での連
携●児童虐待防止法●市川手をつなぐ親の会にて話があった障害児を持つ家庭のアンケ
ー結果には考えさせられるものが多かった。もっと障害を理解し認知しなければならない。
●広汎性発達障害(医療にできる育児支援)●地域で障害者、児を支えるネットワークを作
るという点●医療と地域の問題●全てにわたり勉強となった。県内地域における格差をな
くす取り組みが必要と必要と思う。●市川手をつなぐ親の会と土橋先生の講演。どこの地
域の保護者の共通の悩みかと●発達障害、こどものこころ●産科医療の抱える倫理的な課
題に興味を持ちました●障害児の親と医療機関との連携について●重症心身障害児(者)
の在宅の生活と施設での生活、いつでも自由に選択できると良いと思います。特にグルー

プホーム的な施設をたくさん設置できるように行政が工夫するべきです。●実際の医師、歯科医師が障がいを持った子どもたち、その保護者とどのようにかかわっているのか、という点です。●重症心身障害児（者）の方の育ちにおいて福祉と医療、教育、行政の連携をいかにつくっていくのかという点●倫理的課題、小児メンタル●コーディネーターの必要性、その育成について。●地域医療ネットワーク、医療と福祉の連携、コーディネーターの重要性、出生前診断。●出生前診断については積極的に取り組む必要があるのではないかと思います。

3. 会場について（複数回答あり）

A. 交通の便等わかりやすい 7 3

B. 交通の便等わかりにくい 1 3

特に駐車場がわかりにくい 2

C. 今後シンポ開催してほしい場所 6

「千葉県茂原地区、長生地区」「もう少し広い会場が良い」「東京都内」

「是非君津でも」「千葉駅前ホール」「この場所」

D. その他 1

「家が近場で良く知っているし千葉駅から歩いてこられるのが良い。車は駐車場が少ない。」

4. 今後、話を聞きたいテーマや講師

●“在宅医療”をみんなでどんなネットワークをしていけばよいか、またいろんな障害者についてもです。千葉県、千葉市はまだまだ。理解してもらえる行政になってほしい。●ヘルパーさんの実施できる医療的ケアについて●日本のワクチン行政●成人の障がいへの対応。特に成人の発達障害の現状など。精神科からアプローチできることなど。講師希望：茨城県牛久市の牛久東洋医学クリニック内海医師●外房こどもクリニック黒木春郎医師の講演をお願いします。地域医療の実態について「クリニックの忙しさ」「患者の多様性」から小児科の少なさを紹介してください。●発達障害の成人に対してどのように仕事につき生活していくか、など。アスペルガーの等の子どもが成人して親亡きあとどうしていったら良いのか・・・？子どもときからの指導がとっても大事だから。●子どもを守るための実際に現場にいらっしゃる方々のお話がききたいです。●病気を持つ父親が母子への影響について●小児医療と周産期医療をより掘下げたテーマ●医療制度としての、市民の医療への掛かり方等、および、看護、介護からのかかわり方（かきねのとり方）●在宅こどものレスパイトケア、小児のホスピス、緩和ケア●全国でのサポート体制、広島県など●①ワクチン予防についてより深く知りたい②行政と関係団体との関係をどのようにうまく

活用すればよいか●診療時間外における産科、小児科、精神科等の医師会、行政の取り組み方について●医療ネットワークに参加しない人、不安に思っている人が求めるサポートを聴きたい。講師同士の討論を行ってほしいです。●こどもその2、教育（家庭内、学校、地域）●この国の現状と将来予測から、この国の医療の「身のほど」を考えることをぜひ一度行っていただきたい。●うつ関連●親の会の発表を2コマくらいに増やしていただきたい。●医療における“子育て支援”について。本当に求められる支援とは何か？●こども病院を卒業するねんれいになり、スペシャリストのスタッフが居る病院が欲しい。成人のスペシャリストのスタッフをお願いします。●医療福祉教育等の連携が行く事で国民全体が生きやすくなると思うのですが、今はそのようになっていないのが現実。新ピルな形で国民が利用しやすい制度作りを。●予防接種について（ワクチン後進国のリスク等）●発達障害児・者への理解と対応●ひきつづき医療と地域の問題●子どもの難病●勤務医の実態を直接伺えるように●教育現場と医療現場とのかかわり●浦河赤十字病院・川村先生●様々なコーディネートモデルの実例●医療と福祉の連携など実践的な話を聞ける機会があればと思います。●当日も話題に出ていたように、診断を受ける側には医師に対しての信頼感を失っている現状があります。医師と患者の間の信頼を回復させることは肝要です。このような現状に陥った原因の大きな部分は医師側にあるというのが私の認識です。診断を受ける側、それをサポートする人および医師と3者が忌憚のない意見の交換ができる場があればいいなと思います。

5. 本日の感想などご自由に

●医療、福祉関係者だけでなく、親の会の方など当事者側からの発表もあり、大変参考になりました。●小児のうつは女の子のかかる率が高いのでしょうか。話の中心が女の子のことだったので。住んでいる場所（それこそ道ひとつ分けて）で受けられるサービスが치가うことを感じています。そこが改善されることを望みます。●現場の生の声を聞くことが出来、この様な親ごさんの苦労や先生方の努力を知ることが初めて出来ました。これからももっと多くの人々に参加してもらえたら良いですね。●今回はシンポジウムは現場からの声がとっても勉強になりました。いろんな障害の分野でのシンポジウムで本当に感動しました。このネットワーク、行政、現場、医療、福祉のネットワーク、をこれからの課題と思いました。もうひとつ感じたことは“学校”の現場からの声が聞きたかったです。本当にありがとうございました。また参加したいと思います。●本日のシンポジウムに参加し、重症児施設だけに頼らない在宅支援（短期入所や日中活動の場）が地域医療の発展、ご理解によって進むことを期待できると思いました。●障害児ケアの大変さが理解できた。●せめて飲水等可能な会場がよかった。多くの医師や様々な場で活躍している方々の話が聞けて、充実していた。●子どもに医療が必用になった時、その問題は医療機関と患者個人だけではなく、家族、地域、それを支えるシステムの整備もあると気付きました。千葉

における地域、行政、そして個人での素晴らしい取り組みをされているお話しを伺い、とても楽しみになりました。全国のモデルとなるような成果につながることを期待しております。●今後もテーマ毎に当事者の方を読んで頂けると、と思いました。●内容、ご講演者の先生が沢山で、資料をとばしながら話されるなど、もっとじっくりと個々のテーマのお話を伺いたかったです。●大変充実した内容でした。●・内容がかなり盛り沢山で、大変充実している一方、一つ一つのお話について足早に過ぎていく印象でした。やや消化不良になってしまった点があったいなく感じました。・政策コーディネイター、翻訳者、あるいは)現場の中でのコーディネイターのなり手をどう確保していくか(自然発生的になる場合もあると思いますが)ポイントかなと思いました。どこかで一助になればと思いました。大変興味深いシンポジウムありがとうございました!●子どもを守るために今自分ができることを進めていきたいと思います。●医療現場のことを聞く事が出来たことは、大変有意義な時間でした。●産科医療の抱える～(鈴木真様)出生前診断についての内容は、障がい児を持つ母にとっては聞いていて辛いものでした。検査そのものが男性的な視点だと思いますので、今回のテーマには入れて欲しく無いと思いました。●よかったです。●とても勉強になり、考えさせられる買いでした。●医療構想の実現には議員の方の尽力が必要だとは思いますが、シンポジウムに議員の方が来られると選挙対策のように思えて少し異議がうすれるのでは?(たまたまお呼びした方が元議員の方だったのかもしれませんが)●障害を持つ方々のことを理解することの重要性と大変さがわかったような気がした。これからも障害をもつ方々の理解が広がり深まるようがんばってください。●沢山の人が障害をかかえている子どもに対して手をさしのべてくれています。もし私の3男が28年前にもそのような機関があったらもっと社会に出て行かれたのかなと思いました。小さいころから何か違っていた3男でした。いろいろな本など読む育ててきました。23歳で大学を出たとき就職が出来ないこともあり病院へ行きアスペルガーと診断されました。現在は好きな絵の勉強などさせています。成人になった人へももっと手をさしのべてくれたらと思います。日本はこどものために未来のこどもの為にもっとお金を使って欲しいと思います。●盛りだくさんの内容で、どこについてもうなづきながら聞いていた。現場の声を具体的にどこにもっていったらよいか、わからない。中核支援センターは、たよっていきたい。●来て良かったです。発達障害の診療に際して・・・それを心配されて来院された方などは誘導しやすいのですが、拒否的な親ごさんの場合などの対応が困ります。守秘義務、個人情報保護の問題もあり、親御さんの承認?協力が無いと何をやるにも困難だと思います。●このような医療・福祉のシンポジウムで、政治の方々も参加してやったことに意義があると思います。●第1部と第2部はもりだくさんすぎて、二部は関心のあるテーマではありましたが、ちょっと散漫になったような・・・地域の保健師という話がでしたが、今回、保健師さんや社会福祉事務所のケースワーカーなどによりかけて、それらの現場からの話もきけるとよかったです。●児童虐待は大人になり思い精神障害を持つようになります。子どもは守られ大切にされなければなりません。ワタシ自身、子どもの頃の辛

い思いで、現在神経症を患っています。子どもの時、誰にも守ってもらえなかった・・・
悲しい子ども時代を過ごしました。大人はみんな最初は子どもです。子どもを守ってください。
お願いします。中核地域支援センターのような相談するところをもっと大切にしてください！！
●初めて参加しました。提言者の数の多さに驚きました。これだけの方に参加していただくなら半日でなく一日としてもっと充実させていただきたいと思います。勿体ないと。
半日ならばもう少し人数を少なくしていただき、じっくりお話を伺いたいと思いました。
●今後いわゆる「健康な人」をこういったシンポジウムにまきこめるかが解決の鍵となると思いました。
●Q&Aの時間をもう少し多く取ってはどうか。
●今回のシンポジウムの骨子は「子どもを支える」という事だと思いますが、提供側の話が多く、子ども、家族の立場からの声をもっと少し聞きたかったと思います。
●医療現場からの提言が大変勉強になった。医師がしょうがい者の事をしらなすぎる事、色々なカードを見なければ医師が知らないのは医師の勉強ぶそく。
●内容が広くより深く論議されるよう、同じテーマで第2回目の開催を希望する。
●障害児への通院医療対応、在宅療養、養育の大変さ、地域の支えの大切さなどよく理解できた。
●小児の在宅医療はまだまだ問題が多い。
●介護保険と同様、支援福祉のケアマネジャーが必要である。
●障害児にふれることが少ない為、今回のテーマはどれも新鮮であった。
●内容が①小児在宅医療②その他（産科の倫理、発達障害、精神など）とひろがりすぎてわかりにくかった。第2部は別のテーマなので、第2部をなくして第1部を拡大して欲しかった。
●こどもの問題をひろくとりあげたのはよかったが、その分深く掘り下げられなかったのではないか・・・という気がする。
●重心の子どもの在宅医療についてはもっと議論してほしい。市川医師会の取り組みはとても興味深かった。
●会場も広くきれいで発表をききやすかった。1つ1つの発表時間が少ない気がします。
●「子ども」を、しかも成長する主体としてとらえて各発言が行われたことがたいへん興味深かったでした。成長によって子どもでなくてもかかわることと理解できた。
●様々な立場の方の話を簡単に分かりやすく、多くの話題提供を頂けたことに、本日参加して良かったと思います。
●地域医療担当者として今回の提言等を参考に進めていきたいと思っています。
●それぞれの現場から色々な専門的な話を聞くことができました。
●医療分野の知識が少ないですが、とても勉強になりました。ありがとうございました。
●第1部の資料が手元にあったのは良かった。講師の人数が多ければその分時間を要するのは分かるので、シンポジウムの時間をより長くするか、講師の人数を減らすなど配分して頂けたらと思います。
●時間がタイトでしたね。
●各分野の専門家から専門の知識をドーンと示されるこのスタイルも「知らなかったことを知る」という観点からはとてもおもしろかった。
●大変もりだくさんの内容をありがとうございました。現場と政治家の方々と同じ場所でディスカッションする機会は本当に貴重だと思います。これからもがんばってください。
●日本にまだまだ根付いていないのはソーシャルワークだと考えます。それぞれの分野（教育・医療・福祉）で配置が進んできていますが、十分機能しておらず、地位も資質も低く感じます。今後の社会システム上の課題です。
●色々な立場、職所の方々

から、障害児やその家族が地域で暮らすための課題をお話して頂き、非常に勉強になりました。まずは身近な地域で微力ながら自分なりの活動につなげていけたらと思いました。非常に参考になりました。●本日お伺いした内容は、すべて私が初めて知った事ばかりでした。知らなければ考える事がない為、本日は非常に貴重な時間となりました。ありがとうございました。●こういった機会に参加できてまったく考えていなかった問題に少し触れることができました。●子どもを支える医療現場における様々な問題があり、それを解決すべく多くの方々の努力を知ることができました。しかしながら未だ一般の人々に浸透している事が少ないなあと感じています。医療構想・千葉の方々、是非がんばってください。●内容のこいシンポジウムでした。たいへん、勉強になりました。●医療構想の中から関係機関を含め志者を中心にした連携の必要を強く感じた。千葉のみでなく全国でこういったシンポジウムが開かれ、現場の問題をいろいろな人達の共通意識として持てたらいと思った。●多くの先生方の貴重なお話を聞くことができ、有意義でした。親の会の方の話は胸に響くものがありました。耳鼻科での体験談には涙が出ました。保育現場でも無知→偏見→差別がないとは言えません。自ら学び、身近な人に正しい知識を伝えていきたいと思いました。●様々な分野から多面的に課題を考えることができたいへん勉強になりました。ありがとうございました。●プライマリーケアを！地域で助けてほしい。思い。●盛りだくさんすぎて、ですが、シンポジウムをしてくださる事、ありがとうございます。今後、発達障害関係の団体（JDDnet）の声もこちらの会と一つになって行くのではと心強く思いました。●私は法律分野の人間ですので、成年後見や、高齢化する障害者の方の財産問題などに関心をもっております。ぜひ今後はそのような連携もご検討ください。●専門性の盲点を感じました。高い専門性はネットワークを図ることで活性化し、子育てや町づくりの機運が上がると思っていました。実際には数年前よりネットワークを図ろう連携していこうという声と共に、組織化され図式化されているが中身は本当の連携とれていないことが多い（自らの発信、互いを頼ることでネットワークが生きるのですが）。しかし本日の声、知らないことを知る、声を出して互いが結びついていく必要性を改めて感じました。行政の立場です。情報の発信、当事者の声を聞く資源を生かすことに力を発揮したいと思いました。自分にできることをしていきたいと心から思える機会となりました。ありがとうございました。●逃げ場のない子どものうつに関してもっと社会全体で考える必要があると感じました。●・障害を持つ方やその御家族がより良い生活をおくるためには、その職につかれている人だけでなく、地域の支援が必要である事を改めて認識しました。・現場だけでなく、政治の大切さを認識できました。●障害のある方の母親の方たちがより生きやすくなるための努力、ネットワークづくり等に力をいれられていて勉強になり感銘を受けました。●非常に勉強になりました。医療構想・千葉の存在や活動がもっと世間に伝わればと感じました。非常に有意義な時間でした。●普段何うことのできない現場の声や現状を知ることができました。子どもを大事にする国にするため、行政として自分のかわる母子保健から子ども達をサポートできる取り組みについて改めて考えることが出来

ました。ありがとうございました。●障害者・児に対する様々な問題を知る事が出来たとともに安心して生活を送る、健やかに成長していくためには、多くの機関が連携し、チームとしてサポートを行う事が大切だということを学べて良かったです。地域の一住民として何か出来ることがあるかということを考えています。●医療現場が抱えているこども医療の現状についての理解が深まった。●障害児と接する機会が少なく、大変なんだろうと思ってはいたが、非常に大変と実感しました。説明カードはとても良い手段だと思いました。●専門家のお話はさすがだな・・としみじみ思いました。今後のご活躍を期待しています。よろしく願います。地域・社会の連携、実現できることを願っています。●障害児の在宅生活、ネットワークのコーディネーター、誰が適切かという発見ありまじら。病院の看護師だと思います。障害児の医療依存度高く、身体ケアの視点は不可欠です。「小児在宅コーディネーター」の養成講座が名古屋大学で行われており、千葉県こども病院の看護師でその養成講座の修了生が20人以上おられます。ネットワークの中に入って、交流しながら支援できるように、看護師からも発信していきたいです。●子どもと一緒に、お話をあまりお聞き出来ませんでした。資料をよく読ませていただきます。●障害者に対して本当に幅広い対応が必要である事を理解した。生活、雇用、教育、医療等各部門によりきめ細かい取り組みが必要である。基本的な人権をまもるために活動を強化したい。●地域へ持ち帰り、参考にしたい。●いろいろな現場の方のご意見が伺えて興味深かったです。ただ、お一人の持ち時間が短かったのか、大急ぎすぎて聞き取りがむずかしかったりする場面もありました。時間が長くてももうすこしゆっくり伺えたらありがたかったです。●大変参考になった。●あらためて現場からの報告に実情の理解をさせていただきました。ありがとうございました。●広範囲に医療から児を育てている実践や先生方のお話し、想いをきくことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。虐待防止法、小児保健法について興味深かったです。子どもの育ちを保障していくことの必要性和大切さを再認識しました。いい講演でしたが時間が短くもったいない。大変勉強になりました。ここで得たことを自分なりに考え、行動に移していけたらと思います。●シンポジストの人数の多さに圧倒されました。これだけいろいろな立場の方々が心を寄せた会、ほんとうに心強く感じましたが、1人1人の発言時間が短く、話を聞く側にとっては未消化な感じがしてちょっと残念でした。現状を変えていくために何ができるのか、私自身にできることは地域の人1人でも多くに息子を知ってもらうことぐらいでしょうか、残念ながら・・・。

6. メールニュース

- | | |
|---------------|----|
| A. 配信してください | 36 |
| B. 配信しないでください | 10 |
| C. 既に配信されている | 14 |

以上

集計日 2010年4月21日

集計者 黒木秀子